

スポーツを活かしたまちづくりに関する検討 ー東日本大震災の前後の期間を対象としてー

1114203 赤間 翔

1. はじめに

東日本大震災により被災地自治体では人口が減少しており、震災前の水準に復していない。被災地自治体の多くは、震災前から少子高齢化が進行しており、人口減少は大震災のみによるものではないが、大震災後の地域づくりの大きな課題となっている。また、今後の地域づくりは定住人口のみを対象とするのではなく、来訪者による交流人口を考慮した検討が必要であろう。

本研究は、まず、東日本大震災の被害・避難状況、震災前後の人口推移を詳細に把握する。次に、スポーツイベント等の来訪者動向を把握することにより、定住人口に加え交流人口による地域づくりの可能性をさぐることを目的とする。

2. 本研究の対象地域

宮城県七ヶ浜町を対象地域とする(図-1)。七ヶ浜町は小さい町ながらも多くのスポーツ施設が整備されており、地域づくりとしてスポーツに力を入れているためである。

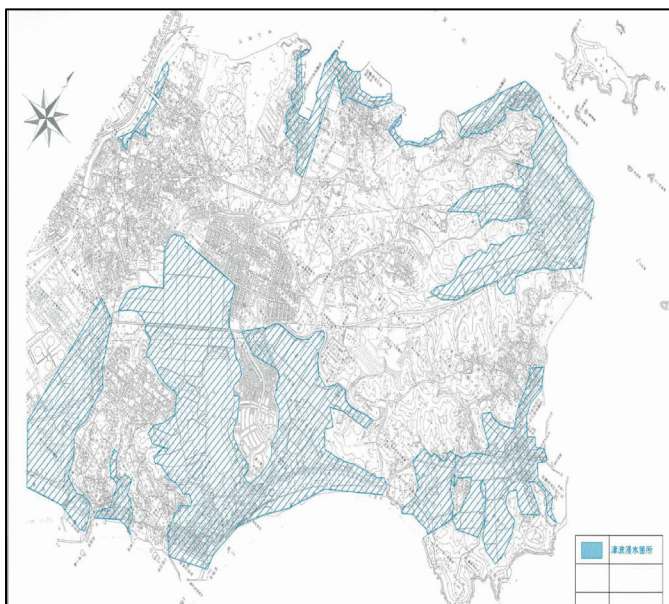


図-1 東日本大震災の津波浸水域(宮城県七ヶ浜町)

3. 分析方法

本研究において収集するデータの体系は、図-2 のようであり、これらデータを用い次の分析を行う。

1)被害・避難状況に関する分析

七ヶ浜町の被害(人的、物的)、避難状況、仮設住宅整備・居住者数を把握する。

2)人口推移

震災前後の期間の人口推移を地区別に把握する。

3)来訪者の動向

イベント(スポーツ、スポーツ以外)の開催状況、来訪者の動向を把握する。

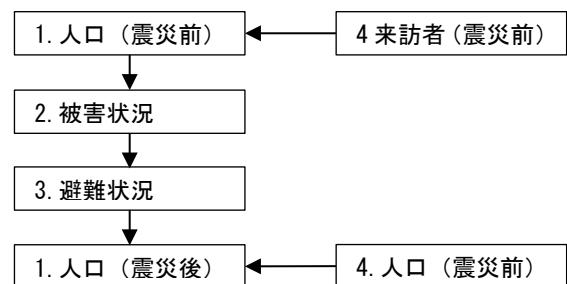


図-2 使用データの体系

4. 定住人口・交流人口に関する分析

(1)被害・避難状況

七ヶ浜町内での死亡者数 72 名(町民 60 名、町民以外 11 名、身元不明者 1 名)、町外での町民死亡者 32 名、町民の行方不明者 4 名であった。建物被害状況では全世帯の約 6 割の世帯が被害を受けた(図-3)。

応急仮設住宅居住者数は徐々に減少している(図-4)。一方、復興住宅の整備は十分には進んでいない。

(2)人口推移

2008 年から 2014 年の七ヶ浜町の総人口の推移は年々減少傾向にあった(図-5)。特に人口が減少している 2011 年から 2012 年は震災が起きた年である。このデータから七ヶ浜町は徐々に人口減少があり、震災によって人口減少が加速したものの推測できる。

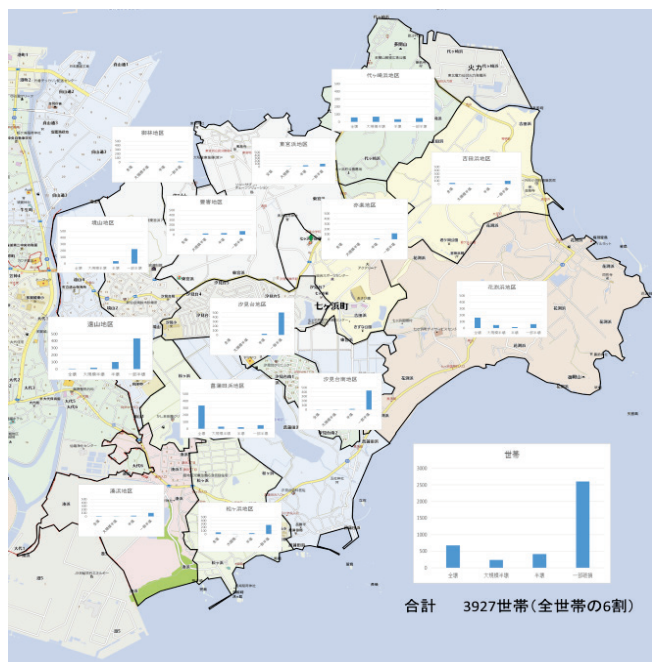


図-3 地区別建物被害状況

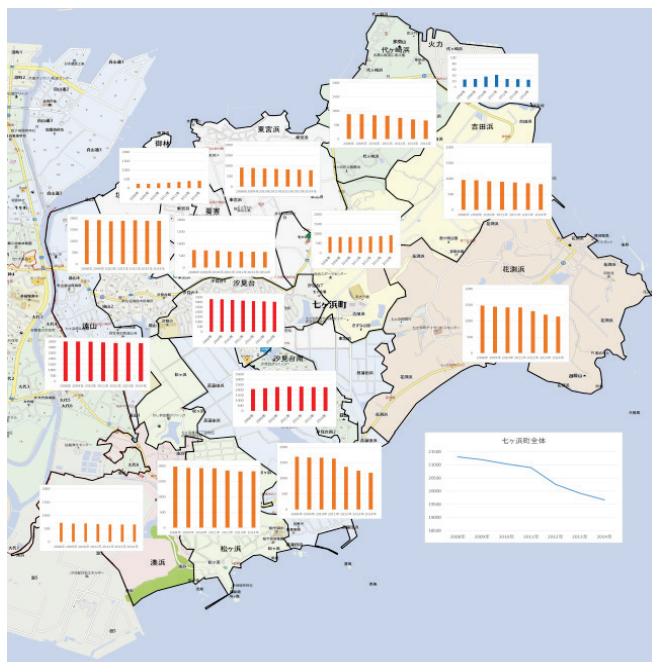


図-6 地区別人口推移

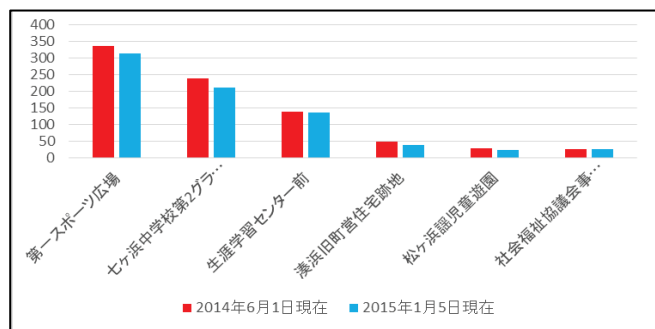


図-4 応急仮設住宅居住者数

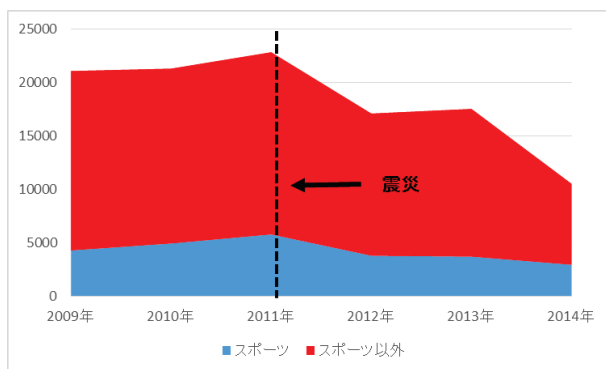


図-7 来訪者の動向

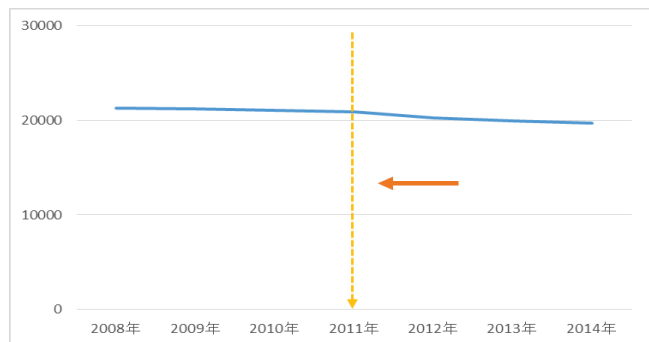


図-5 人口推移

地区別人口（図-6）をみると、多くの地区で人口減少している。増加している地区は町の高台に位置し、復興住宅が建てられている。

(3) 来訪者の動向

七ヶ浜町の2009年から2014年の主要なイベントの総来訪者数をまとめた結果（図-7）、震災後の来訪者の減少が著しく見られ、その後増加したのは大復興祭としてイベントを行ったためである。しかし一度増加した来訪者数も2014年には減少傾向にある。

5. まとめ

東日本大震災の被災地自治体の七ヶ浜町においては、大震災の影響により急激な人口減少があった。スポーツ等のイベントが減少し、来訪者の人口も減少傾向にある。

町外の地域において大震災の影響でグラウンドなどに仮設住宅が建てられ運動をする機会がなくなっていることもあり、特にスポーツイベントの減少がみられた。これをふまえてスポーツイベントを中心に、イベントを増やすことで、来訪者が増加し人口減少に歯止めの可能性も考えられる。また、来訪者だけを増やすだけでなく、町への転居者が居住できるよう復興住宅の整備もあわせて行う必要がある。

謝辞：本研究を遂行するにあたり、七ヶ浜町より貴重な資料・データの提供を受けた。ここに記し謝意を表す。